2005 vol.4 FEB

黄河の森

K F G

発　　行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
代表理事／林　同春
編集責任者／林　青彦 事務局長

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX 078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL.http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg

《サァー行こうか！》

撮影　山下貴史（毎日新聞神戸支局記者）

ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

P.2　ワーキングツアー報告
P.3　日中友好林とその周辺の緑化のやり方
P.4　私と環境(2) キーワードは心
P.4　六甲山クリーンアップ活動
P.4　六甲山系グリーンベルトの森づくり
P.5　黄土高原の植物Ⅲ
P.6　Earth Walker のポールさんと共に

2004年秋のワーキングツアー報告

日中友好林に集まりました

今回の植樹ワーキングツアーに60名が集まりました。10月９日は晴れわたった青空で、汗を流すのに丁度よい天気だった。黄河の森緑化ネットワークの会員のほか、笹山幸俊前神戸市長、崎山昌廣兵庫県私学審議会会長、芹田健太郎兵庫県国際交流協会参与、そして米田準三氏を団長とする(社)神戸日華実業協会の方々、合わせて60名が参加されました。日中友好林の現場は、にぎやかな声につつまれました。自分自身が植えたコノテガシワの苗木が根づき、いつか黄土高原が緑となる。それを願いながら植える作業に疲れも忘れてしまう。皆さんおつかれさまでした。

黄河が緑豊かな地を流れることを！

笹　山　幸　俊　（前神戸市長、現(財)神戸国際協力交流センター理事長）

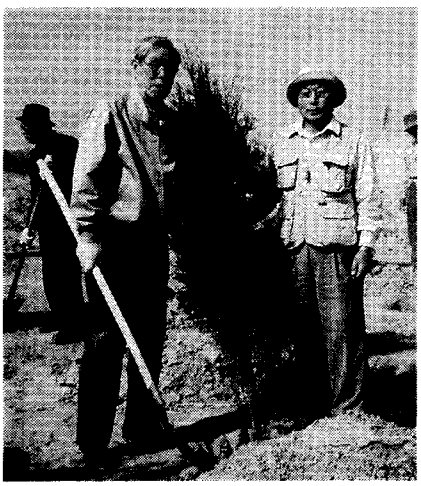
私が林同春代表理事から中国での植樹のお話しを聞いたのは一昨年だったでしょうか、公務で中国へは行く機会が多くありましたが、都市部が中心でしたのでどこに植樹をするのだろうかと考えていました。

今回初めて植樹に参加させていただくことになり、関西国際空港から「黄河の森緑化ネットワーク」(ＫＦＧ）の皆様と北京経由で蘭州へ向かいました。蘭州空港から市街地へ約40分間ほど高速道路を利用しての移動中の両側の山がほとんどはげ山になっていたのには驚きました。さらに、驚いたのはその山々に植樹する計画とのことでした。それとともに六甲山を思い出しました。六甲山は神戸のシンボルであり今でこそ緑豊な山ですが以前ははげ山であったのを1902年から植樹を開始してやっと今のようになりました。このことから考えると蘭州での植樹事業がいかに大変なことが想像できます。今回は、大きなコノテガシワの苗木を植樹しました。穴も掘っていただいていたので苗木を運び土をかけるという比較的簡単な作業でしたが運動不足の私には応える作業でした。しかし、帰りのバスから見ると植樹した一面が黄土色から緑色に変わっているのがはっきりと確認できたことが疲れを癒してくれました。

このように、地道な植樹を続けることが将来の蘭州を緑豊な地に変貌させることになります。その事業にＫＦＧの皆様が参画され資金面の協力だけでなく自ら植樹されていることに感銘いたしました。

さらに、当センターでは留学生支援事業を行っておりますが、中国側の参画されているのが神戸に留学していた柴生芳さんでした。留学生活が勉強だけでなくこのように市民の皆様と交流を深め、さらに帰国後も活躍していることを大変うれしく思います。

今後さらにＫＦＧの活動の輪がひろがり黄河が緑豊な地を流れる事を期待しますとともに、中国との民間交流が深まることを祈念します。



ＫＦＧ会員と植樹される笹山前神戸市長(左)

しっかり大地に根づけよ！

秋　山　　榮　（ＫＦＧ監事、元小学校校長）

地球の森林破壊について、「地球では一秒間にサッカー場一面分の緑が消えている」と国連環境計画事務局は報告している。私達が住む神戸六甲山系も、103年ほど前までは森林破壊で緑が少なかった。今日の緑一面の六甲山系になったのは、先人達の「緑を守ろう」と長年にわたる植樹への熱意と努力の賜物である。

私達「黄河の森緑化ネットワーク」の37名は、10月８日黄土高原に再び緑を！の願いを胸に、蘭州へと旅立った。

北京から蘭州へのフライト、蘭州に近づくにつれ、眼下には木々のない一面薄灰色の山々が連なる。私達の植樹への取り組みは、砂漠地帯にとって大河の一滴のように微々たるものかもしれないが、樹木のない山々を見るにつけ、植樹への意欲が高まってくる。

翌朝、蘭州で合流した神戸日華実業協会の人達と合わせて64名で、市街から23km離れた日中友好林に向かう。途中、道路の両側には植樹された木々が続いているが、乾燥地帯のせいか細く弱々しく感じられる。

日中友好林に到着。ここは植樹の基地として、苗木の栽培に取り組む宿泊施設や、遠く黄河の水をこの山中まで太いパイプでくみあげる設備が完備されている。

昨年、一昨年に植樹した木々や緑化支援金をもとに植林された木々の成長ぶりを観察する。一年ぶりに再会した我が子のようにいとおしく感じる。20cm以上も伸びており、健やかな成長に地元の人達の取り組みの熱意が感じられる。

今年は、乾燥に強い「コノテガシワ」1200本を植樹する予定で作業に取り組む。根元にしっかりと土が付いているので、一本一本大変重い。高齢者もおられるので、しぜんと木を運ぶグループ、植えつけるグループと、分担が決まってくる。しっかり大地に根づけよ！と願いをこめて植樹する。午前、午後と作業をするが、予定よりはかどらず、今回は800本で終了とする。しかし、今回まで植樹と緑化支援金での植樹とで７万本以上の木々が蘭州の地に育つことになる。

翌日緑化ネットワークの活動の様子が、地元紙に写真入で大きく報道された。私達の活動が広く地元の人達に理解され、今後いっそうの協力が期待できそうだし、緑化ネットワークの活動の励みにもなった。

日中友好林とその周辺の緑化のやり方

ＫＦＧ顧問　徳　岡　正　三
（高知大学農学部森林科学科教授、農学博士）

日中友好林の造成・管理は蘭州市南北両山緑化工程指揮部（以下指揮部という）が行っている。現地に赴かれた方はご存知の通り、黄河をはさむ両側には広大な荒れ地が広がっている。指揮部はこうした荒れ地の緑化をめざして奮闘している。降水量が少なく、痩せ地という劣悪な条件下で緑化をしなければならず、その苦労は我々の想像を絶する。劣悪な条件の克服のために、ここでは次ぎの二通りのやり方がとられている。

１．水利工程

日中友好林の西側には柳忠高速道路が走っている。我々はこの高速道路を通って中川空港と蘭州市内を何度か往復した。高速道路の両側の荒れた丘陵や山には主にコノテガシワが植栽され、多くの個所でスプリンクラー灌水されている光景が見られた。放水口がゆっくり回転しながら半径20mほどの範囲に水を撒いているのである。

水利工程とは、高速道路の両側に樹林を作るため、黄河から水を引き、植栽木を育てる方法をいう。当地の年平均降水量は400mm以下（ちなみに日本の年平均降水量は1700mm）であり、これだけでは高木性のコノテガシワにとって水不足となり、生育は困難である。そこで黄河に頼って水を求め、人口灌水で育てる方法がとられる。

すでに黄河から総延長3800kmのパイプラインが高速道路の両側に敷かれ、3200万m³の黄河水がコノテガシワに注がれている。日中友好林の記念碑がある上のいただきに直径５ｍほどの円形の貯水タンクがあり、ここまでポンプアップされて下方の方々の斜面に配水される。ただ日中友好林はスプリンクラー灌水ではなく、手でホースを持って灌水している。良し悪しは別にして、高速道路両側の緑化はこうした水利工程で進められている。

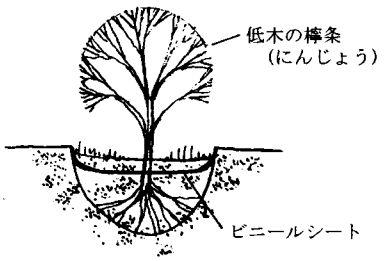
２．三水工程

広大な荒れ地である。どこもかしこも黄河の水で緑化というわけにはいかない。何とか雨水だけで緑化はできないものかと考え出されたのが三水工程である。

三水とは集水、注水、保水をいう。図のように直径50cmほどの植え穴に少し窪みを残して植栽したあとビニールを敷く。その上に若干土をかける。こうすると雨水は植え穴の中央に集まり（集水）、根の回りに注がれ（注水）、かつ土中に入った水はビニールで蒸発が抑制される（保水）、というわけである。ビニールを敷くことにより地温が高まるというおまけがつく。コストも低いという。

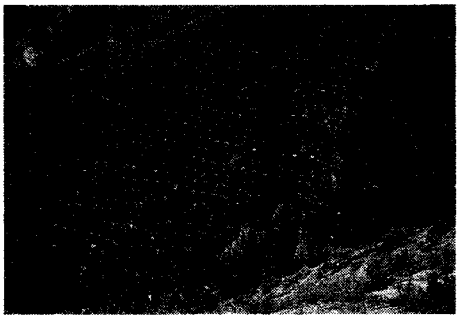
ただし、少ない雨水だけで生育しなければならないので植栽木は乾燥に強い低木を使う。マメ科の檸条（にんじょう）とギョリュウ科の紅砂（ホンシャー）が試植されている。うまくいけば高さ１～２ｍ、幅1.5mの大きさになる。こうなると日陰ができ、やや湿度の高い場所もできるので、そこでタネが発芽でき、幼い苗も成長できる。あとは特に何もしなくても次々と個体が増え、植被が広がるかもしれない。

三水工程は高速道路から離れた“奥地”で行われる。樹林ではないが、緑でカバーされれば当然地表の侵食は少なくなり、きれいな河川への展望が開ける。雨水だけで行われる緑化法として三水工程がうまくいくことを願いたい。



三水工程による植栽

三水工程で植えられた檸条（にんじょう）
右上にビニールの端が見える。
左上の大きな穴はネズミの穴か？


▶三水工程で植えられた斜面

植樹ツアーに初参加

ＫＦＧ会員　北浦洋子
（元小学校教諭）

蘭州市内を抜け郊外に入ると周りは徐々に黄色の土が増し、やがて道の両側はすべて黄色一色になった。同じ様なつくりの農家集落がぽつぽつ、農家の前では昔写真で見た様な赤いホッペの子どもを抱いていたおばあさんが私達を見ている。途中ほんの少しでも水分がありそうな土地には、トウモロコシが植えられ、地を這う様に赤茶色の雑草が生きのびている。やがて広々とした高台に出た。友好の植林記念碑の場に着き、今までの事業内容が理解でき、現地の方の苦労を想った。いよいよ植林をする。苗木が大きくて５、６本も植えると汗が出て一休み。見ると現地のおばさんか(私より若いけど)がニッと笑い、軽くスコップでヒョイと直してゆく。私も真似て周りをペタペタたたき「オッケイ？」と聞くとニコッと笑いうなずく。何回か身ぶりを交えて一緒に植えると楽しくなった。

昼食は、昔の味がするゆでた大きなジャガイモ、味の濃いゆで卵、かたいトウモロコシ、心のこもった食事だった。午後からもヨタヨタと何本か植えたが、スコップをヒョイと何本も持ってくれた小柄で細い兵隊さんや気のよさそうなおばさん達がこの後の世話をしてくれるのだなぁと感謝しつつお別れをした。

あのおばちゃんに又会えるといいなぁ。

(財)イオン環境財団から85万の助成

イオン環境財団は地球環境の保全、地域環境の保全のために、積極的・継続的に活動を行っている団体・個人に対し、1991年より毎年助成を実施しています。この度ＫＦＧは85万円の助成が決まりました。どうもありがとうございます。

助成金はフォーラム開催、日中友好林への技術者派遣、写真＆スケッチ展の広報活動に使用し、一歩づつですがＫＦＧの緑化活動にはずみがつきます。そして自然環境保全に対する関心を広げることができます。

日中緑化交流基金も蘭州に緑化支援へ

2004年12月13日発中国通信によれば、日中緑化交流基金がＫＦＧと同じく、蘭州市南北両山の緑化プロジェクトを支援するため、2005年780万円の無償資金援助を決定した。

３年間の資金援助となれば、緑化面積は80ha、植樹本数は17万1600本に達するとの記事がありました。ＫＦＧに続き日本の他団体も南北両山での緑化支援をふやせば、それだけ黄土高原への緑化に対する関心が広がり、そして森林再生へとつながります。他人事ではなく、非常に嬉しいニュースです。

私と環境（2）　“キーワードは心”

ＫＦＧ会員　畑中弘子
（児童文学者）

環境問題はとてつもなく広くて深いもの。オゾン層破壊、空気汚染、地球温暖化、砂漠化、廃棄物問題、ヒートアイランド現象などなどと考えると、こんなんもう専門家にまかしておかなしょうがない。日常の雑務に追われる、わたしに何ができるというんや？と思ってしまします。

ＫＦＧ会員になってからも、以前と同じように姑の介護や自分の仕事におわれる毎日でした。だが、少しづつ違ってきたことがあるのです。私の意識です。この紙はまだ使える。これはもっと水切りしておこう。こまめに電気を消そう。これは捨てないで廃品回収にまわそう。などと思うようになりました。

地球が痛めつけられていると感じる。このままではえらいことになるぞと思う。自分のまわりの環境を意識しはじめる“心”が、改善への第一歩ではないでしょうか。

それはまた童話づくりにも通じます。登場人物の“心”が描ききれなければ、すばらしい作品はうまれません。そして、何と、名作の背景にはかならず自然との深いかかわりがあるのですね。誰もがよく知っている「銀河鉄道の夜」「アルプスの少女ハイジ」「赤毛のアン」「大草原の小さな家」「ムーミン」など、おもいうかべてみてください。わたしたち人間は、人間として感じる“心”をもっと培いたいものです。養えば養うほどに、環境への配慮がなされる気がするのです。が、このことは、もしかしたら最もむつかしいことなのかもしれません。

第3回 六甲山クリーンアップ活動
― 身近にできることから始めよう ―

緑豊かな六甲山は103年前も黄土高原と同様禿山だった。
恩恵を受けている私達はその保全に努める必要があります。
小さな美化活動も環境保全への輪が広がります。
今年も下記の要領で実施しますので、会員同士の交流もかねて、歩くことの楽しさと小さな活動にふるって参加しませんか。

●**日時**　2005年４月17日(日)　AM.9:30　小雨決行　●**集合**　阪急岡本駅
●**歩行**　約４時30分　６km
●**コース**　阪急岡本駅～打越峠～横池～荒地山～横江～風吹岩～高坐の滝～阪急芦屋川駅
●**持参品**　弁当・水筒・雨具・タオル
●**解散予定**　PM.14:00　●**リーダー**　林　青彦　●**サブリーダー**　安本昭久

六甲山系グリーンベルトの森づくり
―住吉川上流に苗木を植える―

中国蘭州での日中友好林の植林は順調に進んでいます。
緑豊かな六甲山も103年前は黄土高原のような禿山だった。
足元である六甲山の森を保全することも大事です。
クリーンアップ活動につづき、身近にできる活動として、下記の要領で苗木を植えることにしました。
参加できる方は、事務局かホームページでお確かめ下さい。

●**日時**　３月６日(日)・19日(土)　AM.10:00～PM.15:00　草刈下準備作業
　　３月27日(日)　AM.10:00～PM.15:00　植林作業
●**集合場所**　ＪＲ住吉駅　AM.9:30
●**持参品**　弁当・水筒・軍手・タオル等

黄土高原の植物Ⅲ

刺槐、洋槐 ニセアカシア その2

ＫＦＧ顧問　徳 岡 正 三（高知大学農学部森林科学科教授、農学博士）

ニセアカシア
①花をつけた枝
②豆果をつけた枝
③托葉針

「中国主要樹種造林技術」（中国林業出版社）という本の中に、中国で大々的に植えられる主な木210種余りがのっている。いうまでもなくニセアカシアはその中の１種である。まず、この本から引用した図をごらんいただこう。図中の３は托葉針（たくようしん）といって、ニセアカシアは枝にトゲがある。葉がエンジュ（槐）という木に似ており、こうしたトゲがあるので中国では刺槐（ツーホアイ）という名がついている。ニセアカシアはまた北アメリカ原産なので洋槐（ヤンホアイ）ともいう。ついでながらニセアカシアはマメ科に属し、豆果（とうか）といって、いわゆる“まめ”というたねを持った果実をつける。

ニセアカシアは学名をロビニア・シュードアカシアというが、この中の“シュード”に“ニセの”という意味がある。それでニセアカシアという名がついた次第である。ニセアカシアはトゲがあるので、中国語の刺槐に似てハリエンジュという別名がある。“ニセ”を嫌ったのかどうか、日本の図鑑ではハリエンジュを先にして、ハリエンジュ、ニセアカシアと並べるか、ハリエンジュ（ニセアカシア）とするのが普通である。筆者は学名由来の名前を使っていることになる。

北アメリカ原産ということで、中国へはまず青島（チンタオ）に入ったらしい。「アカンシアの大連」は清岡卓行の芥川賞受賞作品であるが、花が白いなどから大連のアカシアはニセアカシアとみられる。こうして中国各地に導入が進んだようだ。ちなみに、一般にアカシアと呼ばれるものには実はニセアカシアであることが多い。昔西田佐知子が「アカシアの雨にうたれてこのまま死んでしまいたい…」と歌ったアカシアも多分本当はニセアカシアではないかと思う。

筆者が中国でニセアカシアに気づいたのは、革命の聖地として有名な陝西省の延安（えんあん）を訪れたときである。ときは５月で白い花が咲き誇り、荒れた風景の中に立つ高木として強く印象に残った。延安も黄土高原の中にある。ニセアカシアは前回述べたように、痩せ地に強く、成長も早い。蜂蜜が取れ、木材や薪としての利用もできる。何よりも水土保持や防風固砂に大きく働く。痩せ地が広がる黄土高原に適した木と思われる。中国の主要な造林樹種となるのは当然の成り行きである。日本では、この木から家具をつくれば重厚感のある格調高いものができるという報告もありながら、現在やっかいもの扱いの木になっている。その理由も前回述べたが、もう一つは、伐採して得られる木の量が持続的な生産に足りないからである。その点黄土高原は日本とほぼ同じ広さがあり、そこから得られるニセアカシアも中途半端な量ではないだろう。木は植えるだけでなく収穫も必要である。収穫してまた植える。土地を荒らさずこれを行うのが持続的な発展である。とにかく黄土高原の多くの地域で、ニセアカシアが土地保全の役割を果たしながら、蜂蜜などを提供し、適当なときに木材として役立っている。

馬金山副指揮と現場で。（左 ＫＦＧ顧問）

四川省成都、日中緑化モデル林を訪ねて

＊ＫＦＧ一行＊　林　青彦（ＫＦＧ事務局長）報告

10月９日の植樹後、10月13日四川省成都人民対外友好協会を訪問。秦琳会長から四川省の政策概況や緑化政策が説明され、小淵基金を協会が担当されていること、日本への研修派遣を13年続けていることなど。

また、緑化政策が進んでいるので国家の指導層がよく視察に来られるとの話がありました。会談後協会の準備で都江堰近くのモデル林を視察。

モデル林のある北大鎮は山梨県竜王町とは友好都市であり、近くには長江の支流岷江が流れ、2200年前につくられた世界遺産の都江堰があり非常に風光明媚なところです。

中国では小淵基金によるプロジェクトは43件あり、ここはその中でも日中友好のモデル林と位置づけ、2002年９月に起工式が行われ、236haのうち２年間で150haが完了。もともと荒地、農地だったのを所謂退耕還林政策によって植林をはじめた。気候がよく雨量も豊富なので植林には灌水の必要がなく、３～５年でしっかりと成長するとの話に、水不足の蘭州には羨ましい限りです。

森林率は日本が67％ですが、ここでは53.8％と日本に近づけるよう頑張っています。20数種の木を植えているが、場所柄洪水が多かったので風景林もあるが主に保水林として行われています。天府之国・四川だけあって、豊富な資源に恵まれ中国内でも積極的に森林保護や退耕還林還草政策を進めていて、森林率は26.6％に達しています。

そう言えば、成都市内では非常に緑が多く、屋上緑化も至る所で見ることができた。日中友好林のある蘭州の黄色い大地、緑と水が豊かな四川と全く対称的な地勢にあらためて黄土高原の森林再生の難しさを感じた。

Earth Walker のポールさんと共に

アース・ウォーカー（ＵＮＥＰ国連の環境機関から平和大使としてこの名を授かる）と呼ばれる英国人ポール・コールマンさんは、1990年から世界を歩いて木を植えています。

リオの地球サミット、南アフリカサミットにも参加。2002年から再びイギリスを出発して2008年北京オリンピックに向けて１億本の木を植える旅の途中アフリカで日本の青年に出会い、彼と共に2004年６月から半年日本を訪れています。11月21日神戸市灘区での彼の講演会と植樹セレモニーに参加しました。（ＫＦＧ理事 小舟史代、ＫＦＧ会員 小舟愛子　参加）

ポール・コールさんと一緒に小舟愛子

小さな日中友好記念植樹

ＫＦＧ永山副代表が高知市の隣り南国市に、このほど第二の人生の居場所として自宅を建てました。これを記念してＫＦＧ理事有志が訪問し、桜の苗木と中国原産香花・シャンファ（日本名トウオガタマ、大きさ２～３cmほどの非常に香りのよい上品な白い花が咲きます）を記念植樹した。土佐の南国市で時ならぬ日中友好記念植樹となりました。副代表いわく、すっかりガーデニングも終わりましたので、南国市にお越しの節は立寄ってくださいとのこと。　TEL. 088-863-1400　PH. 090-1078-3344　　（林 事務局長記）

中国原産香花を植えるＫＦＧ理事たち

会費・寄付金継続のお願い

会員皆さんのご協力により、ＫＦＧの活動は着実に進んでいます。どうもありがとうございます。
会報とお願い書を同封させていただいた会員さんには、ひきつづきよろしくお願いいたします。

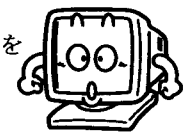
ＫＦＧ事務局からのお知らせとお願い

- 第２回通常総会を５月22日(日)、神戸中華会館にて開催します。詳しくは、ホームページと案内書でお知らせします。
- 会員になっていない方や友人達にぜひＫＦＧへ入会し、活動を支えて下さい。
- 会報への投稿をしてください。ＫＦＧの活動の助言や環境問題の情報、ご自分の考え方をお寄せください。本誌は２月・７月の発行です。締切、紙面の都合より掲載できない場合がありますのでご了承下さい。

2005年度黄土高原植樹ワーキングツアーの予告

- 秋のツアーは、10月中旬にフォーラム開催の都合上９月中旬の予定。９月18日の植樹活動後、2003年度ではウルムチ・トルファンまで行きましたが、今回は、更にシルクロードの奥地要衝カシュガル・ホータンを訪れます。（Ａコース）
- 夏のツアーは日中友好林の作業棟にも宿泊し、現地スタッフと寝食を共にし、一緒に汗を流しての植樹作業や交流の場をつくります。その後は、モンゴルの草原を訪ねます。費用と夏休み時期を考慮していますので、学生も参加しやすいと思います。（Ｂコース）　決定次第ホームページでお知らせします。

- 秋のコース　蘭州・カシュガル・ホータン・上海　9月17日(土)～9月25日(日)(８泊９日)
- 夏のコース　蘭州・フホホト・上海　８月下旬(７泊８日)

ホームページ／Ｅメールのアドレスが決まりました！

ＫＦＧ活動への助言や環境問題の情報、ご自分の考え方など貴重なメッセージをお寄せください。採用されたメッセージはホームページ、会報に掲載させていただきます。
アドレスは表紙をご覧下さい。